

# 国際エイズ会議 (2008/8/3-8, メキシコシティ) 参加報告



東京大学大学院医学系研究科  
健康科学・看護学専攻地域看護学分野  
島村 珠枝

## 1. TB/HIV合併感染に関するセッションの概要

世界のHIV感染者の75万人が結核を発症し、HIV合併結核により23万人が死亡すると言われていた。特にアフリカにおいて、結核はHIV感染者にとって最大の死因であり、結核とHIV感染はイコールと言えるほどである。抗ウイルス療法を行っている患者であっても、日和見感染症の中で結核の罹患は多く、先進国でもまた大きな問題と言える。TB/HIV (HIV合併結核) 対策を進めていくために、以下の2点が特に強調されていた。

### 1) 'Three I' strategy

WHOが現在推奨しているTB/HIV合併感染の戦略として、'Three I' strategyがある。'Three I' とは、以下の3つを指す。

- (1) HIV感染者へのイソニアジド予防内服
- (2) HIV感染者における、結核患者の発見の強化
- (3) HIV感染者への結核感染制御

'Three I' は、WHOがまとめたTB/HIV活動を協調して進めるための12の政策の一部である。これらが積極的かつ強力に実行されると、TB/HIVに非常に大きな影響を与えることができると考えられる。

### 2) Coordination and Collaboration between the TB and HIV communities

上記の'Three I' strategyを含めた戦略を進めていくためには、結核対策とHIV対策の両者の協働が求められる。この協働は選択肢の1つなのではなく、必須のものである。これまでも協働の重要性は認識してきたが、それだけでは充分ではなく、実際に協働を始め、進めていかなければならない。結核対策とHIV対策の2つのプログラムを進めることは、TB/HIVの患者の負担を減らし、生命を守ることにつながる。

## 2. 会議の感想

私は今回、初めて国際エイズ会議に参加した。会議の参加により、世界のエイズの現状が身近になった。日本ではHIV感染者は増えているものの、関心

は低く、世界的にみると感染率の非常に低い国でもある。一方で、アフリカ、アジア諸国を中心とした諸外国ではエイズの問題は非常に大きく、国を揺るがす問題となっている。HIV関連の諸問題の中でもTB/HIVは関心が高く、結核対策への取り組みの必要性についての発言が多く聞かれた。HIVの感染率が高い国では、結核は大きな脅威である。アフリカにおいては“TB is HIV, HIV is TB.”という言葉がとても印象的であった。感染症というボーダーレスな問題であるからこそ、感染者の多い国だけではなく世界的な視野を持って考えていかなければならない、ということを感じた。

また、今回の会議では時間が合わず参加できなかったが、HIVと肝炎ウイルスの合併感染のセッションに関心を持った。日本でもC型肝炎のキャリアは多いので、今後問題になってくると予想される。今後の国内外の動向に注目していきたい。

世界エイズ会議には、世界中から、医学、社会学、NGO/NPO、HIV陽性者など、様々な立場でHIV/AIDSというテーマの下に人が集まっており、その多彩さがとても興味深かった。普段はそれぞれの立場で活動をしている人々が一堂に会し、HIV/AIDSを中心とした世界の広さを感じることができた。



ストップ結核パートナーシップ (南アフリカ) のブース：スラムの家を模したスペース内でTB/HIV患者の写真が展示された